

7千円である。ジュネーブのユースには食堂がなく、外食が自炊だ。近くのスーパーに豚肉、スパゲッティを買いに行く。ジャム缶を落して割ってしまったが「買う」と店員に話すと、大丈夫だと言ってくれた。ポークソテーにスパゲッティ、それにパンだ。フォークとスプーンは、飛行機から拝借したものである。

その14 アルプス

前号の中で、好きな言葉は「足下にコングフラウ雪原、大アレッチュ氷河が弧を描く」だが、昼メシは砂糖2粒ということだけあって、氷河のながめはすばらしく、立入禁止の扉を開けて見た氷河は美しく今でも脳裏に焼きついていて、思えばゾッとする立入禁止もしも足でもすべらして転落したら、誰にも知られることなく永遠の眠りについたことだろう。仏側アルプス・シャモニーに行った時の再びゾッとする話。シャモニーの駅に降りて、リフトで

アルプスにのぼることにしたが、どうもリフトへの道が判らない。気楽に線路を横切って渡りつつある時、駅の方からピッピーツと笛が鳴った。振り向くと僕に対してである。あわてて渡りきったが、30ぐらいの人が追っかけてきて、真剣に話した。きっと高圧電流が流れているから、感電して死にますよ、あなたは幸運でした、とでも言っているようだ。はあ、どうもすみませんとあやまったが、後から考えて背筋に寒さを感じた。寒い中、焼き餅にならずによかった。

その15 病気 PART 3

パリから再び風邪をひいて、しかも全然ねむれず、結局ボンベイの半日観光は熱のために僕だけができずじまいだった。日本まで持ち込んだので、コレラでないことを祈りつつ病院へ行くと軽い肺炎を伴った気管支炎とのこと。病気に始まり病気に苦しめられ病気に終わったヨーロッパ旅行だった。

自由投稿

俺たちは無恥鳥だ!!

— お化け喫茶「なんか妖怪？」を終えて —

5445095 畑尾 武海

「そんなの人が来る訳ない」とか「しょうもない。」と当初から言われ、当事者の中でも見解の相違のあった「お化け喫茶」だった。しかし、3日間を曲りなりにもやり終えて僕としては充分な満足感を得られた。単なる茶店では、あれ程楽しくは出来なかったらと思うのだ。

大学祭の低俗化が叫ばれているが、それはマンネリズムに起因する所が大きい。今年、各大学で催された幾多の「オカマ」に関する企画などそのよい例だ。やはり、各団体の特色を出すにはオリジナリティーが必要だし、いくら「しょうもない」事でも大

真面目に取り組めば、一口に「低俗」と言い切れない段階まで到達できるはずである。何れにせよ、「しょうもない。」と言うばかりで、何も自主的に出来ないよりましだ。その点「なんか妖怪？」では、みんな必要以上に悪乗りしつつ真面目に取り組んでくれたし、ある程度は総科54のオリジナリティーを打ち出せたように思う。要するに、失敗したところ以外は成功したと言えるのではなからうか？(メチャクチャだ)

只ひとつ残念なのは、この企画が総科54の結束を強めたと素直に言えない事である。

5445106 松下 恭子

市中パレードが終り、念願の優勝を手に入れた。何でもそうだろうが終ってみると実にあっけない。我らの神興、不謹神。気ばかりせて何も決まらず、何日も頭をかかえ、それでもやっと完成させた。これも、今は一山の灰になってしまった。

計画の中心となった者は、総科生を54生というもの押し出していきたくと願っていた。しかし、これには難があった。最初から終りまで人がいない。当日の全参加者は50余名、54生だけでは、40名いる

かないかだった。準備の段階でも、結局は、お決まりのメンバー。それだけ意欲に燃えた人がいるということかもしれない。でも、それは有志であって54生という訳ではない。

外から見て総科はまとまって見える。また、まとまることのできる環境にもある。これだけの大きな事ができたのも、総科生ならではであり、1年生ならではである。せっかくの喜びを一部の者だけで終らせたくはないじゃない。

大学祭の初日、森戸道路で地べたにポスターを並べ、大声で何かわめいている集団があった。おやっ、と思って見ていると、その中から、つかつかと誰かが駆け寄って来て、ポスターどうですかと呼びかける。

こんな風景見ていただけましたか？

総科54生によるバザーの一コマですが、これを行っている当事者の方は、それはもう悲惨なものでして、「我らの心に恥もない」とばかりに大声でわ

めき続けたあまり、バザーに協力してくれたほとんどの者がノドをつぶしてしまいました。その上、道行く女の子からは白い目で睨まれ、踏んだり蹴ったりの一日でした。それでも、その甲斐あってバザーの純益は2万円を超え、54生一同喜こんでおります。スタッフのみなさん、どうも御苦労さま。それから、少々高いと思いながらも売り子のガラガラ声に圧倒され、サイフの紐を緩めて下さったみなさん、ほんとうにありがとうございます。

自由投稿

環境科学コースへの誘い～1年の方へ～

——大山での野外実習を終えて——

環境科学コース・2年

増山 和弘

花が好きな人、山が好きな人、空が好きな人、道端の草むらにひょっこり顔を出している。ひょうきんなカエルの姿におかしさを覚える人。みんな環境科学コースに進学してみてもはどうですか。

去る7月11日から13日までの3日間、鳥取県の大山で環境科学コース2年を対象にした、野外実習が行われました。その期間主たる目標として、植生・気候・地形・昆虫を置き、教官5名、学生20名余りが一体となって、大山という一つの自然に正面から挑んで来ました。

大山は、中国山地の独立最高峰です。標高は1711メートルしかありませんが、その成因や立地条件から、豊かな自然に恵まれ、ブナの原生林や天然記念物のキャラボク純林、又種々様々な生物相、発達した地形等が観察できるのです。さらに信仰の山としての歴史も持っています。このような山、大山で私達は実習を行って来ました。

初日には、昆虫の捕え方を学び、2日目には、気温低減率を測定するため、宿舎のある大山寺付近(標高750メートル)から、1班は山頂へと、それぞれ向かいました。昨年は三合目付近でダウンしたというF先生も、今回は見事に頂上を極め、「一生の思い出になる……。」と言われたとか言われなかったとか。正に環境科学は、足で稼ぐということを実体験しました？その後、中腹に集合し、植生調査を実際の植生の中で、やってみました。さらに、残りの時間と3日目は、主に地形の実習を行い、大山寺

付近の火砕流堆積物を観察したりする中で、大山という山の歴史を考えてみたのです。

このような実習の中で、僕は自然というものの複雑さ、緻密さ、精巧さというものを感じ、又その内に含まれる、一つの山をも造り上げてしまうという巨大な“力”というものを感じました。

環境科学の対象を、自然に限る必要はないと考えます。むしろ僕自身は、身の回りの現象—それは、社会的な現象をも含めたものごと—を対象にしたいと考えています。しかし、そういうふうに考えた上においても、現代の課題として、自然現象の理解というものは欠かせないものとなって来ていると思うのです。

環境科学コースでは、基礎的な数学、物理学等から、応用的なものに至るまで、希望に応じて学べます。どうか多くの方が、このコースに進学されることを願っています。コース決定の何かの足しになればと書いてみました。



大学・研究所めぐり

情報行動基礎研究・教授

水上孝一

1. カナダ・トロント大学

オンタリオ湖に面すトロント市は人口2百万、カナダ経済の中核にふさわしい活気のある都市である。トロント大学は市の中心に位置し、伝統あるカレッジ制度をそのまま残し、多くの学部を有す、カナダ屈指の総合大学といえよう。人々の生活のある所に大学が育ち、文化の創造、伝承、蓄積は大学がその役割を果たしているという強い印象を私は滞在中に、この大学に感じたものである。因に、京都にある日本の国立博物館に匹敵する附属博物館を持つことは言うに及ばず、美術館までも有していた。



冬のトロント大学キャンパス

医学関係ではノーベル賞教授もおられ、各国からの研究者が共同研究にたずさわると同時に医学部の拡大が目立っていた。社会科学関係では日本にも世評高かったマクルーハン教授がおられた。先年5年ぶりに訪れたときには、大変立派な図書館学科が設立されキャンパスで威容をはこっていた。古くからある日本語学科もカナダ第一である。私の居た Applied Sciences and Engineering 学部も、日本の大学と違って、学問はこれから始まる場所にふさわしい陣容をはこっており留学生の多いことも特長であろう。

2. キャンパス内にホテルのあるヘルシンキ工科大学

1969年に市の中心より10Km西、湖と白樺林の中へ移転したこの大学のレイアウト、運営は、関係の方々に一見してもらいたいものだと思っていた。各研究棟を核に、その周囲に寮（夫婦寮もある）が立ち並び、いたれりつくせりの学生会館は言うまでもなく、長期滞在研究者、国際会議用と Dipoli と称するホテルがキャンパス内にあるのである。この割でゆくと40数Kmも離れる西条キャンパスには2つや3つのホテルが建つかもと期待している。この工科大学の特長の1つに、フィンランド国



ヘルシンキ工科大学内にあるホテル

立の Technical Research Centre が附置されており電気工学、原子力技術部門は大学の電気工学科とタイアップして研究を進めていた。電気工学科の Prof. Niemi は制御工学講座を率いて、主としてロボットの実用化研究に取り組んでいると同時に、国際自動制御連合会議で活躍し、昨年はその世界大会をこのキャンパスで開催してみせた。システム工学の Prof. Blomberg も優秀な若手スタッフを多く率いており私との交流も深い。他に中央図書館も一見に値する。

3. 中世の城を大学にしているマンハイム大学

ヨーロッパ大陸の中央に位置している西ドイツは恵まれた自然と長い歴史を背負った個性豊かな多くの都市があり、古城があり、中世の建築物を大切に保存している市街がある。Mannheim 大学はこのような王国の名残をとどめている城がそのまま大学の施設になっている素晴らしいキャンパスである。一步建物の中に入れば往時のまゝの風格ある廊下があり、誰れしも雄大な気分で上を向いて歩きたくなるのである。オペレーションリサーチ分野の Prof. Steffens の研究室を訪問したが、内部は現代風に機能化され

ておりフランス美人を秘書にしていた。情報科学分野も特に力を入れていようで新進の Prof. Oettli のもとで日本からの留学生が研究にはげんでいたし、インドを初め多くの東南アジアからの学生が学んでいた。わずかの奨学金とアルバイト



マンハイム大学, Knight の間でのコンサート

で快適な留学生活を送っている様子であり、なにより個性ある大学で、特色ある文化の推進の原動力は

大学の使命であるとの認識が強いのである。

＝就職委員会だより＝

～三度目の秋に思うこと～

社会文化研究・助教授

舟場正富

総合科学部ができて3度目の卒業生の就職戦線は、一段落とまでいかないとしても大よその目鼻がついた時期にいたった状況にある。就職委員を3ヶ年続けて、第1年目の藤原委員長時代、第2、第3年目の山田委員長時代の情報宣伝係としてきりこみ隊長を担当した者として一言所感を述べて、今後の参考に供したいと思う。

最初の年の就職委員会のとりくみには、悲愴感が漂っていたといつてよい。今堀前学部長も、「総合科学部の将来にとってこの一戦は非常に重要である。諸君の御奮斗を祈る。」と高らかに進軍ラッパを鳴らしたものである。

私もある学生から彼の弟の進学志望について相談を受けた時、その学生が高校の進学担当の先生から、「総合科学部などを受けると、就職がないからやめた方がよい」といわれたと聞き、「これは大変なことだ。学生の質にかかわる問題だ」と学部のためという大げさだが、就職問題にはかなり主体的にかかわってきたのである。

新しくできた学部はどこでもその社会的地位の確立のために苦勞するのであるが、とりわけ総合科学型の学部の場合には、民間企業の側の認識が薄く、また公務員試験等についても学生側の取得できるカリキュラムの体系が、試験科目に即していないなどのハンディがあって、かなりの苦闘が予想されていた。東京大学教養学部の場合でも、教授から助手にいたるまで民間企業にコネを頼って売込みにまわったり、公務員試験に必要な学習指導を行なったりしたと聞いている。

このような中で、3回の卒業生の就職状況をみてきた印象を次に整理してみよう。

第1に、社会文化コースを中心にではあるが、地方公務員上級に合格する学生が増えてきたことが指摘できる。国家公務員上級にはまだ届かないが、はじめの頃は合格者がきわめて少なかったこの種の試験に、多くの学生がクリアーしていけるということ

は、学生の側に計画的な準備学習を進めるマニュアルができ上がってきていることを意味するものではあるまいか。第1回の卒業生の中にも若干ではあるがかなり計画的な勉強をしていい線まで行けた例はあるにはあるが、それらは例外的であったといつてよい。今年度のように、そんなに広い門でもないのにずらりと合格者が並ぶといった状況ではなかった。私のゼミナールからもこうした試験の合格者が多く出るが、彼らはすでに3回生の時期に、4回生がいつ頃から勉強を始めたかを見聞きして知っているのである。

第2に、民間企業への就職も、かなりレベルアップしてきていることである。大手の企業では、11月の解禁を待たず、会社訪問の段階で決めていくことが多いが、これは完全に成績と人物で決定されているのは明らかである。企業はひとりの人材を確保するのに3億円を支払う覚悟をもたねばならないという。日本のような終身雇用制の下では、簡単にレイオフすることができないため、何としてでも採用時に慎重を期するのである。だから簡単に面接しているようでも、その観察力をなめてかかってはならない。企業サイドに立った発言ととられては困るが、何年間も就職していく学生諸君をみていると、どの学生がパスして来るかカンでわかるものである。毎年面接している企業の人事担当者ならなおさらであろう。

大手の企業で、法経を指定しているところでも、総合科学部から受験のチャンスは十分あり、また今後も希望があればつることができる。しかし、総合科学部に求人に来た企業に対してでも、相手側が適材とみない学生を押しつけることは不可能である。

大学は3億円を負担することができないのであって、あくまでも採用する側の責任で決定するのはあたりまえのことなのである。

第3に、学生諸君ばかりでなく教官の側でも、就職問題に関する大学生活の中での位置づけが必ずし